

平成31年度全国学力・学習状況調査結果の概要と今後の取組について

海南市立第三中学校

平成31年4月18日（木）に中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」における調査と本校生徒の調査結果の概要は以下のとおりとなっています。今後は、本調査結果を踏まえ、学習指導の一層の工夫・改善を行うとともに、一人ひとりの生徒の学力向上に向けた取組をさらに進めていきます。

I. 調査の概要（文部科学省、国立教育政策研究所資料から）

1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の内容

○教科に関する調査（国語、数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

○生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 調査結果に関する留意事項

本調査は、幅広く生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、実施教科が国語、数学、英語の3教科であることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要だと考えています。また今回示した数値等は、調査結果のすべてを表すものではありません。

II. 教科に関する調査の結果

1. 国語

学習指導要領の領域等	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
		本校	県 (公立)	全国 (公立)
話すこと・聞くこと	3	65.0	67.7	70.2
書くこと	2	88.3	80.6	82.6
読むこと	3	70.0	68.0	72.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	60.0	64.8	67.7

【全国平均正答率を上回っている設問の出題趣旨の例 (本校平均正答率; 全国との差)】

- ◇・・・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する (93.3%; +5.9%)
- ◇・・・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く (83.3%; +5.5%)

【全国平均正答率を下回っている設問の出題趣旨の例 (本校平均正答率; 全国との差)】

- ◆・・・封筒の書き方を理解して書く (48.3%; -8.5%)
- ◆・・・相手に分かりやすく伝わる表現について理解する (61.7%; -8.0%)

2. 数学

学習指導要領の領域等	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
		本校	県 (公立)	全国 (公立)
数と式	5	63.3	62.0	63.8
図形	4	68.8	71.7	72.4
関数	3	40.6	42.1	40.8
資料の活用	4	49.6	54.8	56.3

【全国平均正答率を上回っている設問の出題趣旨の例 (本校平均正答率; 全国との差)】

- ◇・・・数の集合と四則計算の可能性について理解している (75.0%; +12.8%)
- ◇・・・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる (41.7%; +7.0%)

【全国平均正答率を下回っている設問の出題趣旨の例 (本校平均正答率; 全国との差)】

- ◆・・・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる (33.3%; -20.3%)
- ◆・・・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる (35.03%; -13.9%)

3. 英語

学習指導要領の領域等	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
		本校	県 (公立)	全国 (公立) 〈「話すこと」のみ (国公立)〉
聞くこと	7	68.3	64.6	67.9
話すこと (参考値)	5	27.0	—	30.8
読むこと	6	54.4	54.7	55.6
書くこと	8	46.5	47.0	45.8

【全国平均正答率を上回っている設問の出題趣旨の例（本校平均正答率；全国との差）】

- ◇・・・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。（85.0%；+13.2%）
- ◇・・・月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる。（45.0%；+17.7%）

【全国平均正答率を下回っている設問の出題趣旨の例（本校平均正答率；全国との差）】

- ◆・・・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる（78.3%；-10.3%）
- ◆・・・基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる（25.0%；-19.7%）

Ⅲ. 生徒質問紙調査の結果（抜粋）

肯定的な評価をした生徒の割合（%）

	質問事項	本校割合 (%)	本年度 全国との差	H30年度 全国との差
国・数・英に対する 関心・意欲・態度	国語の勉強は大切だと思いますか。	86.7	-4.3	-1.3 (H29との差)
	数学の勉強は大切だと思いますか。	83.3	-0.9	+6.9
	英語の勉強は大切だと思いますか。	71.6	-13.3	(H30なし)
学習状況・ 家庭学習・読書	学校での授業時間以外での学習時間が1時間以上（塾・家庭教師含む）	65.0	-4.8	+9.1
	学校での授業時間以外での30分以上読書をしている。	31.7	+4.7	+9.5
	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	85.0	+12.2	+3.4
基本的生活習慣	朝食を毎日食べる。	88.3	-4.8	+4.1
	毎日、同じくらいの時刻に寝る。	76.7	-1.3	-2.6
社会に対する興味・関心	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	68.3	+17.7	-14.5
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある。	41.7	+2.3	+0.6
自尊感情・規範意識	自分にはよいところがあると思いますか。	66.6	-7.5	+13.1
	学校の規則を守っていますか。	93.3	-2.9	-1.9

Ⅳ. 今後の取組について

本校では、例年「全国学力・学習状況調査の結果分析と改善点」と題した研修会を校内で実施しています。具体的には、各担当教員が結果分析を実施し、学習指導の工夫・改善等を全教職員で共有するものです。

以下は、今回の結果からまず指導のポイントとする点です。

- 国語
 - ・学校で意図的にはがきや封筒を書く指導場を設定する。国語の時間だけではなく、総合的な学習の時間なども使い、計画的に指導時間を作る。
 - ・説明的な文章を扱う際に、文の役割を学ぶことに重点を置く。また、今後は、学級活動や委員会といった時間も有効活用し、話し合い活動の時間を増やす
- 数学
 - ・「代表値」などのように頻繁に出てこない語句について機会あるごとに取り上げながら復習する場面を増やす。
 - ・「表から式をつくる問題」「文章から式をつくる問題」「グラフから式をつくる問題」などのパターンを繰り返し学習させる。
- 英語
 - ・自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞き取る場面を設定しながら聞き取りに慣れさせる。
 - ・基本的な文法を理解しながら応対できるよう、授業中に英語を話す機会を増やす。
- 生徒質問紙
 - ・各教科では、その教科の良さや具体的に将来役にたつ部分などを意識しながら授業を実施することで、各教科の有用性を理解させる。
 - ・各行事の中で生徒がやりがいや達成感を味わう機会を多くとり、自己有用感を高める取り組みをさらにすすめる。